

【メンター個人表彰 入選】 細野 靖幸

(株式会社村田製作所 デバイス事業本部 センサ事業部 事業企画部部長)

○メンターとしての取り組み内容

10年以上前から働く女性のキャリア相談に積極的に乗っており、現在も複数の女性社員（社外も含む）のメンターをボランティアで継続中。一人ひとりのメンティへの支援を短期で終わるのでなく、長期（数年～10数年）に渡って続けている。前向きに話を聞き、大きな視点からの確かなアドバイスを軽やかに返すメンタースタイルに対し、メンティからの評判は非常に高い。メンティが、自分の知人のメンターをお願いすることもある。細野氏の支援により、「キャリアが開けた」「全く新しい視野を手に入れた」という感想が多い。

『私とメンター』 作文／エッセイ

会って話すのは年に1回、3時間。メンターが出す「宿題」の解に到達できるのは3年後。これがメンターの細野さんと私の間で10年以上続いている関係だ。細野さんはもともと社外の方で、お会いした時の話が面白かったのが、縁を繋ぐうちにメンターになっていた。事業企画部のトップとして多忙なのに、私以外にも数人の女性のメンターをボランティアでされている。以前、「なぜメンターをしてくださるのか」と聞いたことがある。細野さんの答えは、女性への応援歌そのものだった。「女性は、結婚や出産などで、価値観や生活がガラッと変わらざるをえない。その度に、仕事を続けるか否かの大決断をする。続ける選択をしても、そのための方法を自分で探し、責任をとっていく。このダイナミズムに魅かれる。そんな女性が大勢活躍している世の中の方が、豊かで面白いと思うから、自分でできるやり方で応援しているだけ。」

そんな細野さんのメンタースタイルは軽やかだ。会うと、互いの近況報告から始める。聞き上手で、かつ女性の仕事観に強く興味がある方なので、「何でそう考えたの？」等、質問がたくさん入る。それに答えているうちに、私自身の考えが整理され、新たな気づき生まれる。その後は、細野さんからのビジネスレクチャーになることもあれば、私からの働く女性の実態講座になることもある。けれども最後は必ず「宿題」（と私が命名した）を出される。今後の私の指針となることを、一言だけおっしゃる。例えば、「付加価値をつけにくい仕事はやがてアウトソーシングになる。そのときに、アウトソーシング先の仕事の質を判定できる人になりなさい。」のように。

会った後はこの言葉の意味を探し、どう行動に移すかを考え続けることになる。真の答えを掴むまで3年かかる壮大な宿題だ。真剣に取り組むと、自分が考えていたよりも高い次元に仕事のゴールがあることに気付くことができる。そして、自分の仕事を持つ素晴らしい価値や意味にも。それは本当にわくわくする経験だ。

社内に女性向けメンター制度がないのに、こうした経験ができてるのは、働く女性を応援する心意気を持った、細野さんというボランティアのメンターに恵まれたからだ。私は、細野さんのお陰で、以前よりもずっと仕事を広い視野で捉えることができ、大きな喜びとやりがいを見出せるようになった。育児休職を経て復帰した今も、新たな使命を見つけられた。心から感謝したい。

(作：推薦者・大柿 麻有子 (村田製作所))